

2016年度本科卒業生 布垣宏樹 (No.281)

最初はただ姉と同じことがしたかったから始めたバレエも、いつの間にかバドゥを踊るまで続きました。バドゥの練習が始まると、女性の動きに合わせられず、サポートするはずが逆に邪魔してしまうことが頻繁に起こり、男性が難しいことを平然とこなしていたか理解しました。発表会までにサポートできるようになるのか不安だったのですが、佐藤先生は僕が失敗する度にどうすれば女性が動きやすいかを丁寧に教えてくださり、井澤先生と木村先生も女性の立場から指導をしてくださいました。他の先生方も沢山アドバイスをくださり、おかげで本番は楽しんで踊ることができました。バレエを続けてきたお陰で、身一つで役の心情を表現する楽しさを知りました。また、日常で自分がどれだけ周りの方々に支えられているかということ、『心』の大切さを学ぶことができました。いつか一人のダンサーとして舞台上に立てるよう、宮下バレエで学んだことを胸にさらに深くバレエの世界を知りたいです。

【母より】

姉と同じことをしたいという気持ちで3歳になるのを待ち望んでバレエを始めました。中学生の時、外のワークショップで海外に出ることを勧めて頂き、実際に体験して以来バレエに対する姿勢が変わりました。お陰様でその後もコンクールやワークショップ、海外経験を重ね、9月から留学することになりました。しっかり学んできて欲しいと願っております。バレエを通じて人のつながりの大切さ、感謝の気持ち、礼儀、心の強さ、しっかりと考えることを教えて頂きました。一生の宝物です。卒業の舞台の為にしっかりとご指導くださった井澤先生、根気強くことんお付き合いくださった木村先生、的確なご指導と精神面でも支えてくださった佐藤先生、本当にありがとうございました。長きに渡りお世話になった喜久子先生を始めとする先生方、学園生の皆様、保護者の皆様、団員、準団員、事務局の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。



2016年度本科卒業生 中西江里 (No.282)

卒業する事を目指して私は「練習あるのみ」という事を常に思ってレッスンに精進していました。特別上手な踊りが出来る訳はなく、かといってイメトレでなんとかなる訳でもない私にはコツコツ練習するしか無いんだと日々のレッスンで痛感しました。決して簡単にはいくものではないと分かってはいましたが、壁にぶち当たる度に私にはやっぱり卒業は無理なのかなと不安になり、下を向いてしまう時もありました。ですが練習を積み重ね徐々に出来る事が増えて行き、同じ目標に向かって仲間との絆が深まるにつれて、当初抱いていた不安は楽しみや向上心へと変わっていきました。心が変わると行動や表情が変わり、喜久子先生に「笑顔が増えたわね」と言われた時、はじめて自分の変化に気付きました。今の自分は以前の自分とは別物だと分かった時は本当に嬉しかったです。宮下バレエで得たものは私の宝物となり、これからもずっと大切にしていきたいものになりました。照予先生をはじめこれまで熱くご指導下さった先生方。パートナーの佐藤先生。沢山の方々に支えられて卒業できた事は本当に幸せで感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

【母より】

二人の姉に続くように始めたバレエで、ただ細々とレッスンに参加していましたが、今回の卒業を通してかげがえのない友達ができ、経験ができ、自分に自信が生まれました。元々人見知りが目立つのを嫌がる性格。その上1人で踊ると何故かいつもアクシデントに見舞われ、舞台上でトウシューズが脱げて泣いたことや、本番当日に高熱で回れなかったこともあり。団公演のオーディションは受けても落ち続け、ついには受けることすらなくなりました。踊りに自信がなく、E2を最後にバレエを辞めると決めました。せめて最後はちゃんと踊れるようにと、E2では準団員レッスンにも前向きに参加し、少しずつ自分を高めていく中、それまで卒業は無理と言っていた娘に変化が見えてきました。E3に進むと決めてからは、食生活も見直し、週5回のレッスンにも積極的に取り組み、「海賊」のメドゥーラを頂いた時には正直、できるのかと驚きました。ですが喜久子先生、佐藤先生、井澤先生の適確なご指導のおかげで、踊りきることができました。一緒に卒業した5人の同期生がいてくれたから最後まで頑張れたと思います。本当に感謝しています。

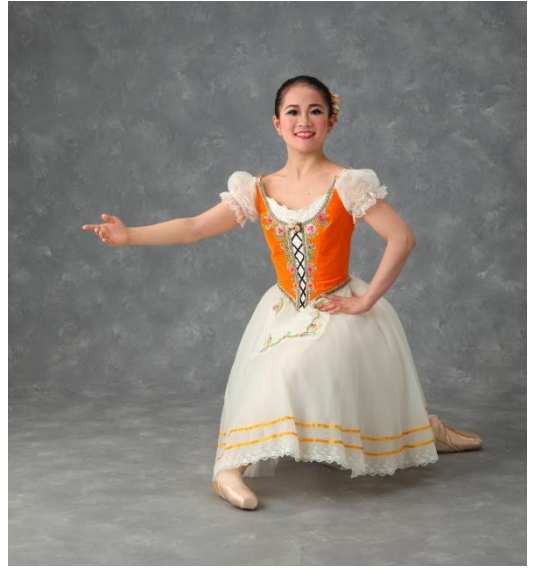


2016年度本科卒業生 駒井まゆ (No.283)

私は5才のときから、ずっとバレエを習って来ましたが、卒業すると決めてからの時間が今までで一番バレエと向き合うことができたと思います。卒業までの道のりは私が想像していたよりも大変で、なかなか思うようにできなかつたり、自分の出来なさに嫌になつたりして落ち込み悩むこともたくさんありました。また、発表会前に肉離れを起こしてしまい、思うようにレッスンが出来ず、不安になったこともあり。しかし、そんなときは杏映先生と一緒に考えてくださったり、卒業生の仲間が励ましてくれたり、家族のみんなが支えてくれたりしました。本当に自分は、周りの人たちに支えられていたと思います。本番の舞台は、緊張もせず、心から楽しんで踊る事ができ、最高の舞台となりました。踊り終わったときやルベランスをしたときの客席からの大きな拍手は今も忘れることができません。本当に幸せでした。一生忘れることのない宝物です。これから、バレエを通して学んだことを今後の生活に活かしていきたいです。今まで本当にありがとうございました。

【母より】

バレエを習い始めてから13年が経ち思い返せばあっという間に卒業の舞台を迎えていたように思います。バレエが好きで上手に踊れるようになりたくて色々なことにチャレンジし、経験をさせていただきました。気がつけば、バレエが生活の一部となり、頑張っている姿を見て家族みんながサポートし応援して来ました。卒業することを決心してからの1年は思っていた以上に大変だったようです。バレエと学校と塾との両立にはとても苦労していました。レッスンを通しても技術面や精神面でたくさん悩み考えることもあり。そんな時杏映先生はいつも温かく見守り、一番近くで支えていただき本当にありがとうございました。バレエを通してたくさん学び経験することにより大きく成長することができました。長くバレエを続け、卒業の舞台を無事終えることができ、今まで、まゆを支えてくださった、喜久子先生を始めとする諸先生方に感謝の気持ちでいっぱい。長い間お世話になりありがとうございました。



2016年度本科卒業生 畑実里 (No.284)

12年前、宮下バレエの発表会で卒業生を見た時から、私もあのティアラが欲しいと思いつき卒業を迎えました。12年間の間にはたくさんの思い出があります。特に卒業を決めてからの1年はあっという間でしたが今までにない位、濃く充実した時間でした。バレエをより大好きになったと共に自分自身を正面から向き合うのは辛かったです。まず基礎が全然出来ていない事を改めて痛感し、さらに初めてのパートナーングでは2人で踊る事の難しさを知りました。自分ではやっているつもり表現が周囲にはなかなか伝わらず私の踊りたいペザントが踊れずじまい。けれど照予先生がいつも事細かく私の苦手な目線の使い方などを教えてくださり、繰り返し練習することで自信や笑顔へと繋がって「心」で踊るという事を実感しました。そして本番では気持ちよく踊る事が出来、幸せな舞台になりました。熱心にご指導して下さった先生方、支えてくださった皆様、そして私に思う存分バレエを躍らせてくれた家族。卒業生、後輩の皆。感謝の気持ちでいっぱい。私は宮下バレエで習う事が出来て幸せでした!!ありがとうございました。

【母より】

たくさんの方々に支えられながら、宮下靖子バレエ学園で卒業出来た事に感謝の気持ちでいっぱい。6歳から習い始め、とにかく踊る事が大好きでいつでもどこでも所かまわず、足を上げ、くるくる回っているような子でした。気がつけば、年々バレエ中心の生活を送り1番好きで大切な物となっていました。華やかな舞台とは裏腹に日々のレッスンの積み重ねがいかに重要であるかを、卒業生として実感し、この1年間は学校や勉強で本当に忙しくも楽しく充実した日々となり心身ともにたくましく成長したように思います。バレエで育てた力を大切に自信を持ってこれからの道を進んで欲しいと願っています。いつも温かく熱心に最後までたくさん支え見守ってくれた照予先生、やさしく笑顔でご指導下さった末松先生。心で踊る事を教えて下さった喜久子先生、諸先生方、支えてくださった全ての皆様、いつも一緒に泣いて笑って頑張ってきた卒業生、仲良くして頂いたお母様方、本当にありがとうございました。